

団体名	SUKI@おかがみ.com
事業名	みんなのカフェ

目的・背景	事業の効果
<p>他地域に比べ、地域での人間関係が築かれているといわれることの多い岡上であるが、新しく転居してきた方や住み続けてきたシニア世代でもリタイア後に地域での居場所を模索する方は多い。また、子育て世代でも、シニア世代でも、近所に知り合い少なく、家以外での居場所がない方も多く、一日誰とも話さなかったという例も耳にすることがあった。反対に、多様な居場所を持っている方は、心も体も元気で、生き生きと暮らしていると言われ、地域のつながりづくりの必要は高まっている。どなたでも気軽に集える居場所であるコミュニティカフェを開催することで、地域での新たなつながりづくりができると考えた。</p>	<p>気軽に訪れることができる雰囲気できていて、岡上分館近くに新しく越してきた若い世代が親子連れで来てくれるようになった。歌声喫茶や手作り講座では、講座を通して知り合い、その後も交流を続けているケースが出てきた。普段家にいることが多い高齢者が娘さんと初めて来場し、カフェで過ごしたことがきっかけとなって、地域の他の居場所にもでかけるようになっていく。引きこもりがちの方のファーストステップの役割を担えたと思う。</p> <p>講師・出演者を地域の中でお願いしたところ、コーラス・ハーモニカの方は発表の場としてのカフェの存在が活動の励みになって、次年度も演奏したいという希望ができた。3月のコンサートも多くの方から出演希望があった。また、みんなのギャラリーに小物を発表した方は、展示が自信となり、次年度、講師デビューの予定である。今年度の企画を通して、次年度のカフェのイベントに関わりたいと思っている方との関係が生まれている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コミュニティカフェ「みんなのカフェ」</p> <p>2019年度4月から3月全9回開催 来場者 計277人 健康寿命を延ばすウォーク5回開催 参加者延べ 36人 ※10月は台風19号の影響・3月は新型コロナウイルス感染拡大予防で中止</p>	<p>運営メンバーの状況が変わり、毎月の開催が難しくなってきたので、2020年度は4回開催とする。川崎市のコミュニティ施策にあるように、地域には様々な居場所が求められることを実感するので、開催可能な方法を探りながら、地域にとって必要な居場所を提供したい。</p>



健康寿命を延ばすウォーク



歌声喫茶



編み物教室

団体名	あすなろの会
事業名	あすなろの会(散歩の会)

目的・背景	事業の効果
<p>超高齢化社会になり、定年退職者等の高齢者が家に籠りがちになっている方々を対象に、日常の生活で外に出て仲間を作り、明るく楽しく生き甲斐を求め、常に「明日はヒノキになろう」との前向きの姿勢を忘れず、会員同志が和気あいあい楽しく語りながら散歩して、健康増進と長生きし、人生を楽しんで頂きたい。</p>	<p>○「散歩の会」を毎月一回、第一木曜日を定例会日に指定し積極的に参加出来るような雰囲気醸成することが出来会員同士が毎回笑顔参集し、会員同士が会話を楽しんでいました。</p> <p>○「かわさき市民公益活動助成金事業」のお陰で、散歩コースの選定にも旅費交通費等を考慮して近距離の名所旧跡や神社・仏閣等にして参りましたが、「かわさき市民公益活動助成金事業」の認定を受けてからは、遠方も選択肢に加えることが可能になり、会員全員が大変喜んでおります。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>年度当初に散歩予定コースを選定し、令和2年2月までは順調に毎月第1木曜日に「散歩の会」を実施できましたが3月度の「2019年度あすなろの会総会」及び「2019年度あすなろの会」の反省会は、新型コロナウイルス問題で会員の健康面を考慮して大変残念ではありますが中止に至りました。</p>	<p>○「あすなろの会(散歩の会)」の事業は、会員全員が高齢者の為、散歩コースも長時間歩行するコース設定が厳しい為、行きたい訪問先は多いのですが、コース設定には役員が大変悩んでしまうのが現状であります。</p> <p>○今後の展望については、会員から訪問したい名所旧跡や施設をアンケートで募集し一日でも永く、「あすなろの会」の事業目的に沿う活動が出来ると確信しております。</p>



2019年5月9日  
旧前田邸宅前にて



2019年6月6日  
熱海・来宮神社にて



2019年10月3日  
自衛隊市ヶ谷駐屯地記念館前にて

団体名	麻生区の宝を発見し伝える会
事業名	麻生区の宝を伝える映画製作

目的・背景	事業の効果
<p>柿生郷土資料館に展示してある砂鉄から作りました、包丁を多くの子供たちが見に来て、麻生区の地名の由来の植物説と鉄説を子供たちが考えるきっかけ作り。</p> <p>現実には柿生郷土資料館に来る子供は少数です。中学生が鶴見川で採取した砂鉄から校庭でたたら炉を作り、玉鋼まで作りました、それを鍛冶屋さんに頼んで2本の包丁を作り展示して有ります この資料の有効活用のため。</p>	<p>映画製作ワークショップを通して小学生が地元の文化・歴史・自然を体験し地元愛を高めていく。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>映画製作ワークショップに参加してくれた子供たちとエキストラで参加してくれた子供達、ボランティアスタッフで参加してくれた人たちが実際に柿生郷土資料館での撮影を通して、自分たちの町の歴史を知るキッカケにもなりました。</p> <p>小学生たちが多くの地域の方に出会い、支えられてこの映画を作ることが出来ました。</p>	<p>予期せぬコロナウイルスで最後のテーマ曲の録音・アフレコ・DVDのデザインが子供たちを集めることが出来ずに、ずれ込み映画の完成が遅れました。</p> <p>今後の展望は出来上がりました映画「妖怪カラムシ」の上映会を川崎市・町田市・横浜市・稲城市の地元からスタートし全国に広げていく。</p>



小道具制作  
「中学生が古時計と祠の文字入れ」



真剣なカメラマンと欠伸のカチンコ  
「午後の撮影で、疲れの出たカチンコ担当」



座禅訓練  
「撮影前に座禅の説明を受けている所」

団体名	特定非営利活動法人なかよしの花
事業名	地域と共に歩む交流イベント(なかよしの家 1周年記念)

目的・背景	事業の効果
<ol style="list-style-type: none"> <li>1周年を記念して地域と一緒にともに支え合う社会をテーマに地域の人と共に講演会及び音楽イベント、利用者参加イベント他を行う。</li> <li>地域の福祉施設、学校、自治会、近隣に呼びかけどうしたら多様性を認め、共生社会を作れるかを一緒に考える。</li> <li>アンケートを実施し、地域の施設として地域に受け止められ、今後も地域と共同で継続的に具体的に出来る活動の提案を戴くことを目標とした。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1周年記念地域交流イベント、音楽、手品など実施。ゆーず連絡会を通じて宣伝、チラシ100枚を町内会長等に手渡した。近隣の福祉施設、近所の方が顔を出してくれた。</li> <li>重度障害者への理解:チラシ・ポスターなどを見て多くの近隣の方が訪れ、重度障害者と身近に接してくれた。</li> <li>職員を募集していることを7町会に協力を求め募集チラシを全戸配布していただいた。</li> <li>トークセッションは多くの学生・関係者の参加があり、障害者の理解、グループホームの生活を知ってもらうことができた。見学やボランティアにつながった学生もいた。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>1周年イベントのイベントは天候不順等の影響でサツマイモなどの作物ができず、他の野菜も販売できるほどではなく、中止した。</li> <li>トークセッション「母から学ぶー重度心身障害者への理解とグループホームの実際ー」、参加者150人、学生中心であったが、障害者のリアルな生活に理解を示したり、グループホームへの関心が示された。(記念イベントと分離して実施)</li> <li>1周年記念地域交流イベント、音楽イベント、手品など利用者、地域住民、関係者60名参加。ゆーず連絡会を通じて宣伝、チラシ100枚を町内会長等に手渡した。近隣の福祉施設方、近所の方が顔を出してくれた。(時期を2月と考えていたが季節が寒く、利用者の健康を考えて12月にした)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>チラシ宣伝などが不十分であった。</li> <li>施設の理解に繋げることが不十分であった。</li> <li>アンケートはトークセッションではできたが、イベントなどでの地域へのアンケートができなかった。</li> <li>地域にお願いするなどのタイミングがよくわかっていなかったこと。施設での生活を発信するための方法について理解が不十分であったことなどが問題であった。</li> <li>ホームページの活用や「おたより」を発行して、地域の配布網を生かして利活用していきたい。</li> </ul>



グループホーム「なかよしの家」生中継

トークセッション風景



記念イベント 手品・音楽



記念イベント 集合写真

団体名	脳トレ桜クラブ
事業名	脳トレ教室(閉じこもりや認知症の予防を目的とした脳と体のトレーニング)

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高齢者の閉じこもりや認知症が増えており、また将来同様な状態となる可能性のある方が多く存在する状況下で、先手を打ってこれらの予防を行う。</li> <li>✓ 活動の門戸を開いて参加者を広く募集した活動展開により、地域高齢者の出かける場所を提供する。</li> <li>✓ そして、脳や体の活性化をはかり健康寿命を延ばし、住み慣れた地元で日常生活がおくれるような地域社会の実現に貢献する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 家に引きこもりがちであったり、将来同様な状態となる可能性のある高齢者が、この教室に参加することを通じて生きがいを実感し、いきいきとした日常生活をおくれるようになること。</li> <li>✓ 募集チラシや会員を通じて事業内容が徐々に地域に周知され、地域住民に好感をもって受け入れられ、多くの会員が参加するようになること。</li> <li>✓ 実施スタッフにとってもこの事業への関与を通じて、公益活動の経験と知識を得ることができること。</li> </ul>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 参加者数として上期・下期に各 8 人を見込んでいたが、実際には上期 19 人、下期 14 人が登録し、高齢者の引きこもり予防の一助となったと思われる。</li> <li>✓ 多くの地域高齢者が参加したのは、配布した募集チラシを見ての参加、既に参加している方からの誘いにより参加した方も多くいて、この事業内容が徐々に地域に周知され、地域住民に好感をもって受け入れられつつあると思われる。</li> <li>✓ 実施スタッフとして全 5 名(当初は 3 名でスタート)がこの事業を運営しているが、公益活動への参画を通じて各スタッフが経験・知見を深め、生きがいを発見することができた。 また、実施内容・教材の準備作業を通じて、スタッフ自身の自己啓発にも役立てることができた。</li> <li>✓ 参加者に対して実施したアンケート結果からも、3.87 点(5 点満点による評価の平均)と、高い評価が得られた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 課題としては、参加者が問題作りに参加したり、実施スタッフとしても活動するようになること。</li> <li>✓ 今後の展望としては、実施方法、使用する教材が参加者にとって新鮮で飽きることがないよう、工夫して新しいものを取り入れていきたい。</li> <li>✓ そのためには他団体の実施内容にも関心を持ち、研修会や Web 等で得た情報をもとに、実施方法・教材を常に改善していく。</li> </ul>



読み・書き・計算を行っている光景



体操を行っている光景

団体名	かわさき民話を愛する会
事業名	川崎の民話を広め、語り継ぐ集い

目的・背景	事業の効果
<p>川崎に「民話」があることを知らない人が増えてきた。それは、実際に語り継ぐ人が減ってきているからだ。</p> <p>それでも、市内のいくつかの団体・個人では、子供向けに工夫して語り継ぐ人たちがいる。そういう皆さんがいる間に後継者を育て、末永く語りつがれることを目的として本会が設立された。</p> <p>民話作家・萩坂昇の甥にあたる萩坂心一、生前萩坂昇と親交の深かった藤嶋とみ子、この二人が中心となって会を起ち上げ、とにかく踏み出そうと決意した。</p>	<p>萩坂昇さんは、「民話」について、「ふるさとの心のごちそう」と表現している。川崎のあちこちに伝わっている昔話を、「民話」という形で書き残した作品群は、まさに「心のごちそう」と呼ぶにふさわしい。その「ごちそう」を多くの子どもや市民の皆さんと味わい、後世にも伝えられたら、地域社会にも潤いを与えられるにちがいない。</p> <p>そんな思いを抱いて、ささやかな一歩を踏み出そうと企画した「集い」だったが、幸いなことに、確かな手ごたえを感じることもかできた。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>多彩なプログラム、会員の呼びかけ、東京新聞やタウンニュースで紹介されたこともあり、当日は100名を超える参加者があった。萩坂昇さんの関係者による座談会では、その人柄をしのぶ時間を持てたり、川崎の民話が豊かな内容を持っていることを、出演者の皆さんが日舞や劇仕立てで表現してくださり、とても有意義な「集い」となった。</p> <p>会場の熱気を感じたので、「集い」終了後に、急遽、「交流会」を開いたところ、10数名の参加者があり、熱い思いを語る方が続出した。10名の方が有料会員、今後の催しの案内を希望すると連絡先を明記して下さった方が20名以上もいて、とても大切な繋がりを持つことができた。</p>	<p>課題は、実際に「川崎の民話」を語り継ぐ人を養成できていないことだ。一回の企画では、達成できるものではないが、これがきっかけとなって、次年度以降、地道な取り組みをしていきたいと考えている。また、公的な場所での朗読発表会などが実現できるように、関係者と連携を取ることも大きな課題となるだろう。</p> <p>「集い」の案内が、ほとんど個人向けで、学校単位での案内は全く手付かずだった。会場のキャパシティの問題もあり、集客にやや消極的だったことは否めない。今後は大きな会場を確保して、たくさん参加していただけるような企画を考えていく必要があろう。</p>



川崎の民話の朗読劇(川崎セブンスター)



民話作家・萩坂昇さんの関係者の座談会



音楽と絵と語りによる民話劇(おと絵がたり)

団体名	麻生シンガーズアンリミテッド
事業名	川崎市地域住民のための無料合唱コンサート事業

目的・背景	事業の効果
<ul style="list-style-type: none"> <li>麻生区又は近辺の川崎市に在住する住民を対象に合唱コンサートを提供し、生活に躍動感をもって貰うことを目的とする。尚合唱グループへの参加者は老若男女を問わない事とする。</li> <li>音楽を通じて知的な刺激を受けたり共通の趣味を持つ仲間とのコミュニケーション、及びコンサートを通じて地域住民の福祉と健康保持など上記に挙げた目的を達成したい。</li> </ul>	<p>金井原苑ボランティア団体担当者小泉様より「利用者様皆さま大変楽しまれ、とてもよい演奏会で、素晴しかったとデイ職員からお聞きしました。」「次回のご来苑 ぜひぜひお待ちしております。」とメールにてお礼のお言葉を頂きました。又、デイサービス本阿彌様より「利用者の方々もとても楽しかったとおっしゃっておられました。」「またよろしく願っています。」とのお言葉をメールにて頂いております。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>① 合唱コンサートを地域住民に対して定期的を開催する。 一度無料合唱コンサートを実施した。 2020年2月15日：川崎市民公益活動助成金事業としてコンサート事業を実施。場所は、特別養護老人ホーム金井原苑のデイサービスセンター。麻生シンガーズアンリミテッド団体から8名参加。19曲を披露した。デイサービスを利用されている高齢者の方、約20名程度が参加された。</p> <p>② 合唱コンサートを実施するために練習を定期的に行う。 活動期間2019年4月から2020年3月迄に中林講師26回、佐々木講師2回(中林講師と2名で指導)と自主練習で関先生2回、計28回の練習を実施した。</p>	<p>2019年4月から9月まで、想定していたよりも合唱初心者がほとんどな構成員では、単独でコンサート事業を行えるほどの楽曲のレパートリーの数と感動するほどの音質を取得するのに時間がかかった。1年間で最低2度のコンサート事業を行おうと2020年3月にも予定していたがコロナ肺炎ウィルスのため2020年4月25日(既に金井原苑に予約済)に延期した。</p> <p>2019年度での助成金の支援があり、財政的にも体制的にも強化出来き、2020年4月からはコロナ肺炎ウィルスなどのリスクも十分考慮したうえで、自助努力で老人ホームや幼稚園などの無料コンサートを規模は小さいながらも継続して行く予定です。</p>



金井原苑 合唱・一緒に歌う歌



金井原苑 合唱



練習風景

団体名	かわさき子どもの権利フォーラム
事業名	子どもの権利にかかわる普及・啓発のための講演会・シンポジウム

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市の子どもの権利に関する条例の認知度は、子どもで約 4 割、大人では約 3 割しかない(川崎市子どもの権利委員会調べ)。より広く市民に川崎市の子どもの権利に関する条例の内容や子どもの権利の理念を伝えるために、広く様々な市内の子ども支援団体等に呼び掛けて、連携・協働しながら「子どもの権利」にかかわる講演会、シンポジウムを開催することを大きな目的とする。</p>	<p>記念講演会やシンポジウムの開催を通して、おとなの「子どもの権利」についての学習の場となるばかりでなく、子どもを支援する様々な団体、悩みを持っている保護者や児童等、様々な市民の意見交流の場となる。</p> <p>また、当団体が継続的に講演会・シンポジウムを開催することで、川崎市子どもの権利に関する条例の認知度を上げる効果がある。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>7月13日(土)に川崎生涯学習プラザで行われた講演会では、約100名の参加があった。会場が参加者との意見交流ができる広さだったため、アンケートにも「条例制定の意義と仕組みの重要性について学ぶことができた。評価と検証の違いのところ、ストンと理解できた」というような記述が目立った。</p> <p>12月22日のシンポジウムでは、大会議室から大ホールに会場が変更になったため、広報活動に力を入れた。その結果、当日は350名を超える参加者があり、全国から集まる結果となった。川崎市の子どもの権利条例の認知度を市内ばかりでなく、全国に広めるうえでも非常に効果があったといえる。</p>	<p>12月22日はホールという大きな会場になったため、広報活動に力を入れ、全国からのホームページを通じての申込者が150名を超え、川崎市の子どもの権利条例の認知度を全国に広めるうえでも非常に効果があったといえる。しかしながら、このシンポジウムを意見交流という観点から見ると十分とは言えなかった。アンケートからも、会場との意見交流の時間が欲しかったという声も寄せられた。</p> <p>2年間にわたり、さまざまな講演会、シンポジウムを開催してきたが、それらの内容を今後「条例制定秘話」として冊子にまとめていきたい。また、2021年度子どもの権利条例施行20周年に向けた企画を現在検討中である。</p>



条例制定秘話 Part 3



条例制定秘話 Part 4



条例制定20周年に向けてのメッセージ

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会
事業名	こどものまちミニカワサキ 大人会議

目的・背景	事業の効果
<p>昨今の学校教育では、自分で考え、行動することが求められているが、子ども達は、学校、習い事などに忙しく、いつも大人の監視下に置かれて自由を失っている。逆に言えば、大人が自由を奪っているような状況でもある。</p> <p>本申請事業では、「こどものまちミニカワサキ」を支える大人に焦点を当て、保護者だけでなく地域の大人達に子ども達を見守る目と心構えを持ってもらうことを主な目的として、勉強会や説明会の運営、メインイベント実施後の報告書の作成・報告会の開催を行う。</p>	<p>「こどものまちミニカワサキ」の開催を通して、世代を超えたコミュニケーションの機会を創出すること(多世代交流支援)、川崎のまちづくりや子育てに興味を持つ市民同士をつなげ、緩やかな水平的人間関係を育むことで、まちの底力を向上させること(ソーシャルキャピタルの醸成)にも繋げ、子ども達が自分で考え、行動できる地域環境を整えていく一助になっていくことを目指す。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>【メンバーの内訳】大人会議は、フェイスブック(FB)ページや、ホームページ、ロコミなどで募集、実行委員会へ <b>27名</b>が参加。当日スタッフとして、FB やクラウドファンディングサイト、ロコミを通して参加くださった方や、こども実行委員の保護者などから <b>16名</b>が参加。</p> <p>【大人会議】3月より月に1回程度、全12回の大人会議を実施。毎回10~16名ほどが参加した。</p> <p>【こどものまちに関する勉強会】先行事例に関する勉強会を2回、開催当日、バルーン講師に来ていただき、バルーン講習を行った。また、内部講習として、大人会議メンバーが講師をする講座も2回行った。次年度への引継ぎと報告会を兼ねた勉強会を3/14に実施予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為に延期となった。</p>	<p>・こどもスタッフの保護者を対象にした説明会を実施。保護者の中から、運営の理念に共感してくださった<b>2名</b>の方が大人会議へ参画していただき、<b>12名</b>もの方が当日の運営ボランティアを担ってくださった。</p> <p>2018年10月、2019年11月と2回の開催を経て、連続で参加した子ども達の中から、運営を担いたいという希望があがってきている。今回シテプランナー(公共)の役割を担った子ども達から、自分たちで協力して「まち」をつくっていくのだから、市長はいらないのではないか?という意見が飛び出し、全員で意見が飛び交う議論に発展。結局、市長選挙は行われることになったが、子どもたちの力で運営するまちであることを大人もこどもも実感するエピソードとなった。大人が子どもたちの力を信じ、より「こどもの参画」できる場面を増やすことが、今後の課題であり展望である。</p>



大人会議の隅には常に子ども達がいた



9/15 保護者説明会



イベント当日、大人もとことん楽しみました!

団体名	特定非営利活動法人 studio FLAT
事業名	FLAT 展【障がいあるなしに関わらず作品の魅力を伝える展示会】

目的・背景	事業の効果
<p>当法人では、障がいあるなしに関わらず、作品の魅力そのものを“FLAT”に感じてもらいたい、作品を“FLAT”つまり横並びに展示して「障がい者アート」という概念を超越していきたいとの願いを込めて、[FLAT]というコンセプトを発信し続けるとともに、障がいのあるアーティストの経済的自立を促しています。FLAT 展の活動が既存の福祉を変え、新たな価値創生の原動力となるように、より実践的な共生社会へつないでいくことを目的に本事業を行います。</p>	<p>展示会には多岐にわたる方々に来場していただくことができ、アートというツールによって障がいのあるアーティストと地域をつなぐことができました。</p> <p>さらに、当法人の取り組みに対して、多くの人に興味を持っていただき、アートを通して様々な方々とつながっていきながら、本事業のワークショップ実施中にNHKのテレビ取材を受ける機会を得ることができました。アートに関する活動が、共生社会へのより実践的なソーシャルインクルージョンのひとつの形として実現可能であることを示すことができました。また、アートの持つ多面的な可能性が示唆されました。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>gallery FLAT 展 地域交流展アートでつながろう！をコトニアガーデン新川崎南棟3F gallery FLAT にて4日間にわたって開催しました。川崎市内の事業所だけでなく、屋久島の事業所も参加いただけました。一般参加アーティスト3名、来場者数(芳名帳に記載のあった人数)51名、推計90名ほどの来場がありました。</p> <p>好きな動物をリクエストして描いてもらおう！のワークショップでは参加13名があり、NHKのテレビ取材もありました。自由アート制作のワークショップでは3名の参加がありました。また、期間内に行ったアーティストとその関係者の交流会では23名の参加がありました。</p>	<p>今回は生活介護事業所に併設したギャラリーにて展示会を行いました。展示会をやっているのをたまたま見かけて、という方の来場は少なく、事前に広報紙等で情報を得て来場された方が多数でした。</p> <p>今後、本事業を発展させるためには、より多くの方が来場しやすいように、コトニアガーデン新川崎内の他施設と連携して、多くの方の目に留まるような場所に作品を展示したり、ワークショップを行ったりすることで活動の影響力を高めていきたいと思っています。</p>



交流会の様子



ワークショップの様子



展示の様子(一部)